

鶴翔同窓会 新潟支部

人物列伝 その1

関 昭一 物語

昭和20年3月卒業(第53回)



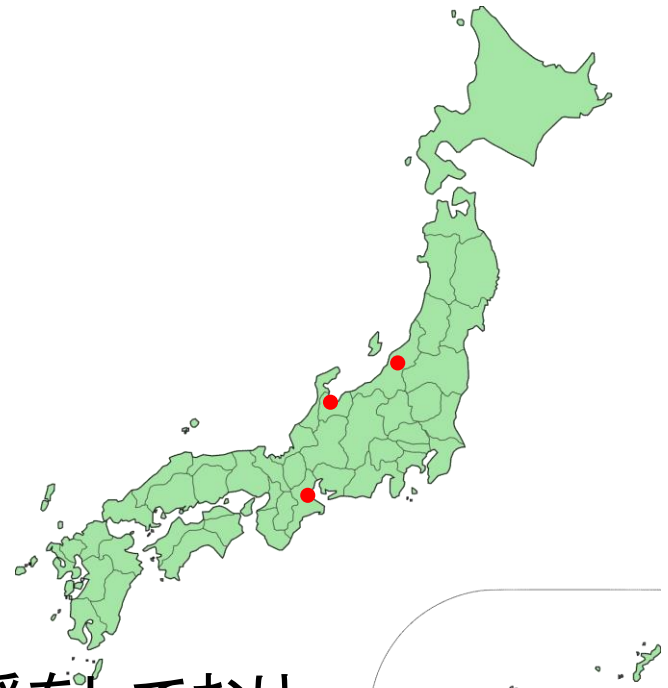
2015年(平成27年)8月22日
鶴翔同窓会新潟支部総会にて

於:東映ホテル
発表者:大滝 一

生誕

父親：正一（富山県出身）

母親：年子（浦佐出身）



母親の兄が三重高等農林学校の教授をしており
父親はその生徒であった。母親は三重で兄の世話していた。
そこで知り合い結婚され、その後浦佐：関家の養子となった。

父親は三重高等農林学校を卒業し農林省に入省
その最初の赴任地が新潟県の白根であった

2男4女の長男として生を受ける

昭和3年3月10日に白根で誕生（浦佐で出生）

子供時代

0～3歳 新潟県白根市

4歳時 白根大火があり新潟市田中町に転居
(祖母に背負われ逃げた、振り返ると赤い炎)

小学1年～ 大畑小学校に通学
(芸者学校と言われていた)

小5の秋 三重県久居に父の仕事の関係で転居
(現在の津市)



青年時代

中学1, 2年と三重県津中学校に通学

中学3年～5年、父の仕事の関係で旧制鶴岡中学校

中学を卒業し海軍に入隊(舞鶴)したが夏に終戦となる

旧制山形高等学校に入学し山形市で3年を過ごす

東京帝国大学法学部に入学(寮生活:千葉→本郷)

(当時の東京は焼け野原であった)



鶴岡中学時代(1)

鶴岡市高畠町(現在のNHK近く)向いは竹内さん

中学4年時に群馬県太田市の中島飛行場で勤労奉仕

1週間おきに夜勤があり、

飛行機の尾翼にジュラルミン板をビスで止める作業

50～60棟もある寮で過ごし、いも中心の弁当で空腹の毎日

鶴岡からいり豆などが送られてきたりもしたが脚気になった



鶴岡中学時代(2)

鶴岡中学の2学年上に丸谷才一がいた
芸術祭に彼の色とりどりの手を描いた作品が飾られていた
武道が盛んで、厳しい寒さの中の寒稽古はきつかった

<参考>

当時は小学校から旧制中学へ
進む者は15%程度
更に旧制高校に進む者は
その中の10%程度であった



短歌

動員の深夜作業を逃れ出れば星座傾き霜白く降る

東京の大空襲はわが誕生日 被災者の群れに十七歳の我



官僚時代

東京帝国大学卒業後自治省

(現在の総務省)に入局

その後、千葉県、福井県、

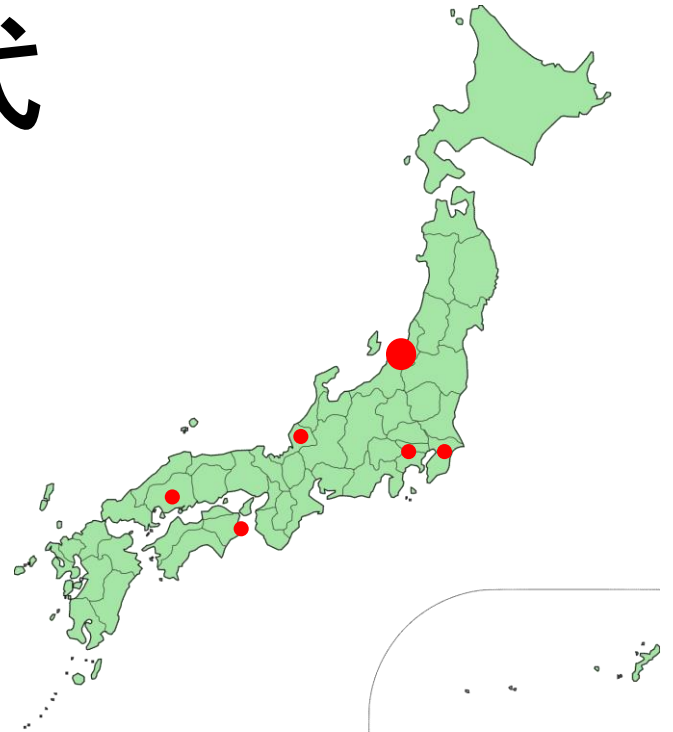
広島県、徳島県に出向しながら

自治省、宮内庁に勤務し、自治省課長から新潟県副知事へ

福井県時代に見合いで結婚(1男3女を授かる)

奥様の父親は国鉄技師で転勤族であった

奥様の本籍は広島県因島の向かいの愛媛県の島



副知事時代

昭和50年10月に新潟県副知事となる
新潟県は代々副知事を自治省から迎えていた
前副知事の柳澤氏(大学の1年先輩)の推薦
君健男知事時代の2期8年間副知事を務める
外(国)向きに田中角栄、内(県)に君知事がいた
割と楽だったが、組合との折衝は苦勞した



青陵大学理事長として



NIIGATA SEIRYO UNIVERSITY
新潟青陵大学

昭和58年から新潟県信用組合の仕事

平成5年に新潟青陵短期大学学長となる

平成8年に新潟青陵学園理事長となる

看護大学の設置などに尽力

2年前まで法律に関する授業も行っていた

青陵大学

大学院

青陵短期大学

看護学科352名

看護学研究科6名

人間総合学科486名

福祉心理学科532名

臨床心理学研究科20名

幼児教育学科258名

現況

新潟市真砂に奥様と住まれ
2年前まで園芸を趣味としていた
1男3女、孫3人

教育とは、目的意識、自尊心を育てることが大事！
教えるとは共に希望を語ることである。



短歌

春浅き庄内浜の穏しくも磯つたひにぞ君を訪ひしか
乙女等の水中の影人魚めき加茂の港に夏雲拳がる





<関先生へ>
長時間のインタビューにお答えいただきありがとうございました。
今後もお元気にご活躍されますことを祈念しております。

(2015年月5月27日 午後3時40分～5時20分 大滝一、多津)